

報告事項ス

平成25年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成25年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成25年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成25年6月28日
高等学校課

- 1 日時 平成25年6月4日（火） 午後3時40分～5時
- 2 場所 白兔会館
- 3 参加者 委員：11名
事務局：生田教育次長、山根参事監兼高等学校課長、御船高等学校課高校教育企画室長
他
- 4 議事 時代を担う生徒を育成するための魅力と活力にあふれる本県高等学校教育の在り方について
- 5 委員からの主な意見

（学校の魅力化について）

- ・ 学校の魅力は、教員の魅力によるところが大きいので、その魅力を向上させることで、県外からも生徒が集まる学校となる。 そのためには教員が常に自己研鑽に努める必要がある。
- ・ 学校が序列化していることはよくないと思うし、生徒がどこの学校に入学しても、誇りを持って学校生活を送れるような教育の在り方を考えていく必要がある。

（生徒の進路選択について）

- ・ 中学校や高校の段階で、将来の職業や将来ビジョンを見つけるのは難しく、そのような中で進路を決めていくことの難しさもあると思う。
- ・ 中学校3年生で進路を決めるのは非常に困難な現状があるので、高校に入学してからある程度の選択肢が用意されて、進路選択の際に多様性があつたほうがよい。
- ・ 高校入学時に、学問的、教科的、専門的な能力の分化をする必要があるのかを問い直してみたい。5年先、10年先の教育を考えたときに、人間性を歪めたり、可能性を縮めてしまうことになるのではないか。

（今後の高校の在り方について）

- ・ あえて年少人口割合の低いところに総合高校を設置し、多様な選択肢を用意して、勉強や部活動に専念できる教育環境を作るという考えがあつても良いと思う。
- ・ 鳥取県が実現可能な高校の卓越性は何であるのか検討していく必要がある。
- ・ 教育に効率性を求めてはいけない。 教育は未来への投資なので、市場経済と切り離して検討していくことも、今後の高校の新しい枠組みを作っていく上で必要である。
- ・ 鳥取県でないとできない教育、鳥取県を愛する教育を行い、併せて、どういふ人材を育成するかということを検討していく必要がある。
- ・ 教育は高校で終了するものではないので、高校までは、学び方や学び続ける力を付けていき、将来に繋げていく必要がある。
- ・ 高校では、人としてどうあるべきかということ、つまり人間教育をしっかりと行っていく必要がある。 それにより、心が育ち、自分の生まれたところに愛着を持てるようになる。

- ・前々回の答申の際のキーワードは、「生徒の個性の伸長」と「教育の多様化」があったが、今回はどういうキーワードを打ち立てるかということも検討する必要がある。
- ・適切な情報を入手して、それを活用して生きていくことが生きる力の一つとなるので、「情報化」がキーワードの一つなると思う。
- ・生徒数の減少により個々の生徒にきめ細かな対応が可能となることを考えると、これまでの再編のような学校数の減少ではなく、学校の規模を縮小しつつ質の高い教育を目指すことが良いのでは。

【参考】今後の予定

- ・答申の時期：平成26年度9月頃を予定
- ・審議の回数：平成25年度は3回から4回程度、平成26年度は2回程度を予定
(審議の進み具合により調整することもある)

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	
	石 操	日吉津村長	
	門 脇 由 己	米子北高等学校校長	
	栢 木 隆 志	米子市立福米中学校長	
	小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	
	高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部准教授	欠席
	松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	欠席
	森 田 清 子	北栄町立北条こども園長	
	矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	山 口 朝 子	鳥取市教育委員	
	山 本 和 代	鳥取県PTA協議会理事	
	山 本 正 人	鳥取市立若葉台小学校長	

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育委員会 事務局	生 田 文 子	教育次長	
	山 根 孝 正	参事監兼高等学校課長	
	御 船 斎 紀	高等学校課高校教育主査兼高校教育企画室長	